

令和6年度“「長久手市役所の仕事」通知表”の作成（外部評価）④

令和6年8月23日 開催概要

開催概要	
開催日時	令和6年8月23日（金） 午後3時10分から午後4時まで
開催場所	市役所西庁舎3階 学習室1・2
出席者氏名 （敬称略）	＜外部評価実施者（行政改革推進委員）＞ 石橋健一、服部亜由未、室 淳子、細萱健一、 青山正秋 ＜担当課＞ 福祉部長 川本満男 福祉政策課長 水野真樹 係長 武田憲明 ＜事務局＞ 総務部次長 福岡隆也 行政課長 山田美代子、 課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	2人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

＜外部評価実施者の質疑、意見等＞

委員

個別避難計画について、災害時に支援者がどのように動くのか分かりづらい。
避難経路や地図はないのか。

担当課

申請者が申請書の必要箇所を全て記載すれば、それがそのまま個別台帳となる。避難経路は、留意事項を書く欄はあるが地図はない。

委員

この台帳で、発災時に上手く立ち回ることができるのか。

担当課

発災時にこの計画だけで支援者が動けるかとうと、無理がある。個別計画を

完成させるなかで、支援者とのマッチング、避難訓練の実施を経て、計画の実効性を高めていくことが重要である。少なくとも訓練をやってみるまでは実効性が担保されない。まずは優先度が高い人から順に個別計画を完成させていく。

委員

災害は明日起こるかもしれないという危機感を持つべき。足りないのはマンパワーか、予算か。予算が80万円しかないが、計画の完成に向けてどう力を入れるのか。

委員

申請書に、自治会等への情報提供を希望しません、とチェックする欄が設けてあるが、ここにチェックをされると、地域で助けることが困難になるが、市はそのリスクを本人に説明しているか。

担当課

チラシで地域のよる見守り体制について説明はしている。個人情報の取扱いについて配慮する必要があるため、このチェック欄を設けなければならないことを理解してほしい。

委員

コロナ禍前までは民生委員らが自宅を回って申請書を届けて説明していたが、現在は申請書を郵送するだけである。それに対し支援が必要なレベルの高齢者が自主的に返送するのは難しい。サポートはどうしているか。

担当課

昔は民生委員が回れる量だったが、65歳以上の独居が増えてきて、回り切れない量になったと聞いている。また、住民票上は独居でも、1つの住居で世帯が分かれているだけで実際は同居人がいる等、行政で把握できることに限界がある。

本来、行政が主体で集めるのではなく、地域が中心になりながら、行政も一

緒にやっていく形であるべき。自治会に情報を知られたくないという人もおり、チェック欄を設けることで少しでも提出してもらいやすいようにしている。

委員

地域も体制を取りかねているところである。

担当課

人によってつながっている先が違う。自治会、介護事業者、家族、それぞれのサポートがある。普段の生活でつながっている人が、聞かれたときに答えることができるものを作る必要がある。

委員

市が民生委員らとコミュニケーションをとるにも、人手が必要である。マンパワーが足りないのではないか。

委員

専従しているのは何人か。

担当課

専従職員はいない。他業務と兼務しながら従事している。

委員

災害が起こったときは、必要ならば住民基本台帳やマイナンバー登録情報で情報を確認するのか。

担当課

災害時は要支援者名簿を示し、支援が必要な方の情報を地域で使っていただくようにしている。

委員

申請書を送付したのは令和4年度ということだが、全ての人が返送したわけではない。返送しなかった人への聞き取りはいつ行うのか。反応がなかった人、返送できなかった人の方が、重要な要支援者の可能性が高いと思う

担当課

返送のあった1,894人の内、区分A（自力で移動できない）の人の、情報を確認やマッチングからまず取り組んでいきたい。返送されなかった人に対しては、民生委員が独自に訪問して申請を促している。

委員

成果指標である認知度や登録者数は、順調な進捗ではないと感じるが、今後の方向性は現状維持で良いのか。他の事業と連動するなどして拡充していくべきでは。

担当課

福祉専門職の人は本人らと関わる機会が多いことから、提供先に福祉専門職を増やしていきたいと考えている。

講評

- ・この事業は、要支援者の名簿整理事業である。登録者を増やす、情報を精査することが最優先である。
- ・市の抽出した401人中7割は申請書の返送があったが、返送のなかった人の調査も必要である。
- ・個別避難計画の作成には時間と人手が必要なため、自治会等と協力したり関連事業と連携して作成に取り組み、単に名簿を整えるだけでなく、災害時に活用できるよう備えておくこと。